

数学演習第二 (演習第2回)

線形：直線・平面の方程式と外積

2019年10月9日 実施

1

[内積, 外積] (線形 p.4, pp.7-8)

- 空間ベクトル $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{bmatrix}$ に対して, **ノルム (大きさ)** $\|\mathbf{a}\| := \sqrt{a_1^2 + a_2^2 + a_3^2}$,

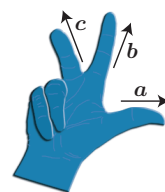
$$\text{内積 } \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} := a_1b_1 + a_2b_2 + a_3b_3 (= \mathbf{b} \cdot \mathbf{a}), \quad \text{外積 } \mathbf{a} \times \mathbf{b} := \begin{bmatrix} a_2b_3 - a_3b_2 \\ a_3b_1 - a_1b_3 \\ a_1b_2 - a_2b_1 \end{bmatrix} (= -\mathbf{b} \times \mathbf{a})$$

が定義される (内積とノルムについては \mathbb{R}^n のベクトルに対しても同様に定義される).

$\mathbf{a}, \mathbf{b} \neq \mathbf{0}$ のとき, \mathbf{a}, \mathbf{b} のなす角を θ ($0 \leq \theta \leq \pi$) とすれば, $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = \|\mathbf{a}\| \|\mathbf{b}\| \cos \theta$ が成り立つ. また, $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^3$ が1次独立のとき, $\mathbf{a} \times \mathbf{b} \in \mathbb{R}^3$ は次の性質により特徴付けられる (一意に定まる):

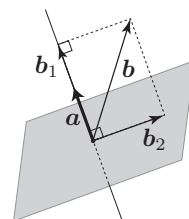
- ① \mathbf{a}, \mathbf{b} の両方と直交, ② $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{a} \times \mathbf{b}$ は右手系, ③ $\|\mathbf{a} \times \mathbf{b}\| = (\mathbf{a}, \mathbf{b}$ の作る平行四辺形の面積).

- $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c} \in \mathbb{R}^3$ が**右手系** (をなす) とは, 右手の親指, 人差し指, 中指の3本だけを立てたとき, 3本の指が指す方向をこの順に $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$ の方向に合わせることができることをいう. 特に, \mathbb{R}^3 の基本ベクトル $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3$ は右手系をなす. 行列式を用いれば, $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c} \in \mathbb{R}^3$ が右手系とは, $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}] > 0$ であることに他ならない. ここで, $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}]$ は $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$ を3列に並べてできる行列 $[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}]$ の行列式を表す.



- (1) $\mathbf{p} = \begin{bmatrix} 1 \\ -2 \\ 2 \end{bmatrix}$, $\mathbf{q} = \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \\ -5 \end{bmatrix}$, $\mathbf{r} = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$ に対して, $(\mathbf{p} \times \mathbf{q}) \times \mathbf{r}$, $\mathbf{p} \times (\mathbf{q} \times \mathbf{r})$ を計算せよ.

- (2) $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^3$, $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$ のとき, \mathbf{b} を $\mathbf{b} = \mathbf{b}_1 + \mathbf{b}_2$ ($\mathbf{b}_1 = t\mathbf{a}$, $\mathbf{b}_2 \cdot \mathbf{a} = 0$) の形に分解せよ. (このとき, \mathbf{b}_1 を \mathbf{b} の「 \mathbf{a} 方向の直線」への**正射影** (または \mathbf{a} への正射影), \mathbf{b}_2 を \mathbf{b} の「 \mathbf{a} を法線ベクトルとする平面」への正射影と呼ぶ.) 更に, $\|\mathbf{b}_1\|$ と $\|\mathbf{b}_2\|$ を $\|\mathbf{a}\|$, $\|\mathbf{b}\|$, $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$, $\|\mathbf{a} \times \mathbf{b}\|$ を用いて表せ (2)の説明も見よ).



- (3) (1) の \mathbf{p}, \mathbf{q} に対して, $\mathbf{p} \cdot \mathbf{q}$, $\|\mathbf{p}\|$, $\|\mathbf{q}\|$, “ \mathbf{p}, \mathbf{q} のなす角”, “ \mathbf{q} の \mathbf{p} への正射影” を求めよ.

- (4) $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}]$ ($\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c} \in \mathbb{R}^3$) を第3列に関して余因子展開して $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}] = (\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{c}$ を示せ. 更に, この関係式を用いて, 次を示せ: ① $(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{a} = (\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{b} = 0$, ② \mathbf{a}, \mathbf{b} が1次独立ならば $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{a} \times \mathbf{b}] > 0$ (すなわち $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{a} \times \mathbf{b}$ は右手系).

- (5) $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^3$, 3次直交行列 Q ($\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} {}^tQQ = Q{}^tQ = E$) に対して, $Q\mathbf{a} \cdot Q\mathbf{b} = \mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$ (従って $\|Q\mathbf{a}\| = \|\mathbf{a}\|$) 及び $Q\mathbf{a} \times Q\mathbf{b} = \pm Q(\mathbf{a} \times \mathbf{b})$ (\pm は $\det Q \in \{1, -1\}$ の符号) を示せ.

2

[面積, 体積] (線形 p.6, p.8, pp.85-86)

- $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^2$ (平面ベクトル) に対して,
 \mathbf{a}, \mathbf{b} の作る平行四辺形の面積 $S = |\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b}]|$ ($= \|\mathbf{a}\| \|\mathbf{b}\| \sin \theta = \sqrt{\|\mathbf{a}\|^2 \|\mathbf{b}\|^2 - (\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})^2}$).
- $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c} \in \mathbb{R}^3$ (空間ベクトル) に対して,
 \mathbf{a}, \mathbf{b} の作る平行四辺形の面積 $S = \|\mathbf{a} \times \mathbf{b}\|$ ($= \|\mathbf{a}\| \|\mathbf{b}\| \sin \theta = \sqrt{\|\mathbf{a}\|^2 \|\mathbf{b}\|^2 - (\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})^2}$),
 $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$ の作る平行六面体の体積 $V = |\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}]|$ ($= |(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{c}| = |\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c})|$).

- (1) $A(1, 3)$, $B(2, -1)$, $C(3, 1)$ のとき, $\triangle ABC$ の面積を求めよ.

- (2) $A(-1, 2, 1)$, $B(1, 0, -5)$, $C(-3, 1, 2)$, $D(2, 2, -1)$ のとき, $\triangle ABC$ の面積, 四面体 $ABCD$ の体積を求めよ. ($\overrightarrow{AB}, \overrightarrow{AC}$ の作る平行四辺形, $\overrightarrow{AB}, \overrightarrow{AC}, \overrightarrow{AD}$ の作る平行六面体を考えよ.)

ここでは、 $\mathbf{x}_0 = \begin{bmatrix} x_0 \\ y_0 \\ z_0 \end{bmatrix}$, $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix}$, $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} a \\ b \\ c \end{bmatrix}$ とし、点 (x_0, y_0, z_0) と位置ベクトル \mathbf{x}_0 を同一視する。

Ⓐ 点 \mathbf{x}_0 を通り、 $\mathbf{a} \neq 0$ を**方向ベクトル**とする直線 l は (l 上の任意の点を \mathbf{x} として)

$$\mathbf{x} = \mathbf{x}_0 + t\mathbf{a} \quad (\text{直線 } l \text{ のベクトル方程式})$$

と表される。これを成分表示し、パラメータ t を消去することにより、

$$\frac{x - x_0}{a} = \frac{y - y_0}{b} = \frac{z - z_0}{c} \quad (\text{直線 } l \text{ の方程式})$$

が得られる。(この表現は $abc \neq 0$ のときのみ意味を持つ。例えば $a = 0, bc \neq 0$ なら、 $x = x_0, \frac{y - y_0}{b} = \frac{z - z_0}{c}$ となる.)

Ⓑ 点 \mathbf{x}_0 を通り、ベクトル \mathbf{b}, \mathbf{c} (1次独立) で‘張られる’平面 α は (α 上の任意の点を \mathbf{x} として)

$$\mathbf{x} = \mathbf{x}_0 + s\mathbf{b} + t\mathbf{c} \quad (\text{平面 } \alpha \text{ のベクトル方程式})$$

と表される。平面 α の**法線ベクトル** \mathbf{a} (例えば $\mathbf{a} = \mathbf{b} \times \mathbf{c}$) と上式との内積をとれば、パラメータ s, t が消去され、 $\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x} - \mathbf{x}_0) = 0$ が得られる (点 \mathbf{x}_0 を通り、 \mathbf{a} を法線ベクトルとする平面)。これを成分表示して、

$$a(x - x_0) + b(y - y_0) + c(z - z_0) = 0 \quad (\text{平面 } \alpha \text{ の方程式})$$

を得る。(通常は $ax + by + cz + d = 0$ あるいは $ax + by + cz = d'$ の形に整理する.)

(1) [1] (2) を利用して次を示せ。

① 点 \mathbf{x}_1 と Ⓐ の直線の距離 (垂線の長さ) は $\frac{\|\mathbf{a} \times (\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_0)\|}{\|\mathbf{a}\|}$ で与えられる。

② 点 \mathbf{x}_1 と Ⓑ の平面 $\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x} - \mathbf{x}_0) = 0$ との距離 (垂線の長さ) は $\frac{|\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_0)|}{\|\mathbf{a}\|}$ で与

えられる。平面が $ax + by + cz + d = 0$ の形なら $\frac{|ax_1 + by_1 + cz_1 + d|}{\sqrt{a^2 + b^2 + c^2}}$ となる。

(2) $A(1, 2, -1), B(0, 3, 2), C(-2, 1, 1), D(2, -1, 0)$ とする。① 直線 AB (2点 A, B を通る直線) の方程式を求めよ。② 平面 ABC (3点 A, B, C を通る平面) の方程式を求めよ。(まず法線ベクトル $\overrightarrow{AB} \times \overrightarrow{AC}$ を求めよ。) また、点 D とこの平面の距離を求めよ。③ 点 A を通る平面 ABC の**法線** (l とする) の方程式を求めよ。また、点 D と直線 l の距離を求めよ。

【注】②, ③ の距離は、それぞれ点 D から平面 ABC , 直線 l に下ろした垂線の長さに他ならない。この点に注目すれば (1) を利用しなくても計算できる (まず“垂線の足”の座標を求める)。

(3) 2平面 $\alpha: -x + 2y + z = 3, \beta: 3x + 2y - z = -1$ に対して、① 2平面 α, β の交線の方程式を求めよ。(交線方向ベクトルは2平面の法線ベクトルと直交することに注意。また、交線が通る点としては例えば xy 平面との交点を考えるとよい。あるいは、交線を連立1次方程式の解の集合と考えてもよい。) ② 2平面 α, β のなす角を求めよ。

(4) 直線 $l: x + 2 = \frac{y + 1}{3} = \frac{z - 4}{-2}$ と平面 $\alpha: 2x - y + 3z = 2$ に対して、① 直線 l と平面 α の交点 \mathbf{x}_0 を求めよ。② 直線 l を平面 α 上に正射影して得られる直線 m (\mathbf{x}_0 を通り、“ l の方向ベクトルの平面 α への正射影”を方向ベクトルとする直線) の方程式を求めよ。③ 2直線 l, m のなす角 (= 直線 l と平面 α のなす角) を求めよ。④ 2直線 l, m を含む平面の方程式を求めよ。